

## 学校の取組発表

# 授業に参加できる日本語の習得を目指して

## 【主な発表の内容】

(1) 大泉町の実情、南中学校の実情

(2) 日本語学級の取組

- ・環境整備（生徒が落ち着いて学習に取り組める教室の確保）
- ・教材の整理、収集（JSLカリキュラム、フリー素材の活用、漢字検定）
- ・言語技能の検査方法の確認（DLA検査の実施）
- ・日本語担当教諭等の連携

（Google Classroom、授業記録簿、黒板の使用）

- ・ICT端末の活用（ポケトーク、Google翻訳などの活用）
- ・日本語指導助手の支援（大泉町から） 等

(3) 今後に向けて

### 【成果】

- ・学校全体の協力により日本語学級の教室環境を整えた。  
→生徒：落ち着いて授業に取り組むことができ、文字を丁寧に書くようになってきた。
- ・授業デザインを工夫することで漢字、語彙、文法など幅広く授業を実施した。  
→生徒：しっかりと文章を書けるようになってきた。
- ・担当教諭対象の学習会を開くことで、共通認識のもとにDLA検査を実施することができた。

### 【課題】

- ・個の能力に応じたカリキュラムの作成と実施
- ・通常学級と日本語学級のさらなる連携



## 【協議テーマ】 日本語指導の現状と課題について

### <班別協議より>

- ・ 散在地域も多国籍化、多言語化してきており集住地域になりつつある。
- ・ 異文化、宗教の問題など課題が多様化してきている。
- ・ 文化の違いから子供と保護者の理解を得るのが非常に難しい。
- ・ 子供によっては母語の習得が不十分であるため、日本語指導が非常に難しい。
- ・ DLAを活用することにより客観的な日本語能力を判断し、個に応じた支援を進めることが必要である。
- ・ 中学卒業後の進路実現のために今何をすれば良いのか。



### <参加者の感想より（取組発表含む）>

- ・ 多言語サロン、大泉町で統一された漢字検定、学校の指導体制等、参考になる事例がたくさんあった。
- ・ 時間割の工夫や学校全体での支援していく姿勢、縦横の繋がりが良かった。JSLカリキュラムで効果的な指導、学習記録など真似してみたい。
- ・ 日本語指導をする中で困っていることについての対応策などを一緒に考えることができ、これからの指導に生かして行きたいと思った。



### まとめ

日本語指導の  
充実に向けて...

#### ①個別対応のカリキュラム

- ・ DLA検査を用いた正確な初期評価
- ・ 個々のニーズに合ったカリキュラムの作成

#### ②教材開発・収集

- ・ JSLカリキュラムの活用（日常生活と学習面をサポート）

#### ③協力体制の充実

- ・ 教室環境の整備（落ち着いて生活できる教室の確保）
- ・ 時間割の改善

